

消防の広域化

地域と住民の安心と安全を守る消防を目指して

奈良県広域消防組合

管内の概要

奈良県広域消防組合は、県内11消防本部が合併し、平成26年4月1日に誕生した全国最大の消防組合です。本部は橿原市に置かれ、消防署数18、保有消防車両台数166台、職員数は1,284名で、職員数においても全国11位の大規模消防組織となっています。

構成市町村は、奈良市と生駒市を除く37市町村（10市15町12村）であり、管轄人口は約90万人で県内人口の65%、管内面積は3,361km²で県全体の80%に及ぶなど奈良県の大部分を占めています。

北西部の奈良盆地地域は大阪府と接していることから交通の便もよく、都市近郊として発展しており、京阪神大都市圏に含まれています。これに対して、宇陀地域など北東部は、大和高原と呼ばれる高原台地が続ぎ、南部の吉野地域は、大峰連山や大台ヶ原といった紀伊山地が大部分を占める山岳地域であり、過疎化、高齢化が深刻化しており、管内にあっても対極的な地域が並存する状況にあります。

また管内には邪馬台国の有力候補地とされる纏向（まきむく）遺跡、山の辺の道、飛鳥、日本最初の本格的な都城である藤原京、南朝が置かれ桜で有名な吉野山などがあり、まさに日本のふる里ともいえる地域です。特に聖徳太子ゆかりの法隆寺に加え、吉野から熊野に続く修験道の霊場「大峰奥駈道（おおみねおくがけみち）」など、管内に2つものユネスコ世界遺産を有していることも特筆すべきことです。このように管内に世界遺産、国宝や重要文化財など数多くの貴重な遺産や文化財を抱えているという特異性から、これら日本の宝を守るということも本組合に課せられた重要な使命といえます。

広域化に至るまでの経緯

平成18年6月消防組織法の一部が改正され、7月には市町村の消防の広域化に関する基本指針が示されました。これに伴い、奈良県では平成20年3月に奈良県市町村消防の広域化推進計画が策定されました。そのなかで示された県内1本部、3本部、4本部の3通りの組み

合わせ案が検討された結果、最大級のスケールメリットが期待でき、かつ住民サービスの向上が期待できる39市町村を管轄する「全県1消防本部体制」を目指すこととなりました。これに基づき奈良県消防広域化協議会が設立され、総会、幹事会及び事務局等の準備体制のもと、消防の運営に係る調整や組織、費用負担等について広域化に関する協議が重ねられました。しかし、平成24年1月に2市が協議会から脱退され、その後、その2市を除く37市町村（11消防本部）による奈良県広域消防運営計画が策定されました。そのような経過を経て、平成26年2月、奈良県知事から奈良県広域消防組合の設置が許可され、平成26年4月1日に消防業務を開始いたしました。



平成26年3月28日 奈良県広域消防組合設立式典
森下 豊 管理者

広域化後の効果

現在、消防を取り巻く環境は著しく変化し、高齢化に伴う救急搬送件数の増加、南海・東南海地震や洪水等の大規模災害発生の懸念、老朽化した消防施設・設備の維持や更新の困難性、消防救急技術の高度化・多様化、消防救急無線のデジタル化などは、各消防本部が抱える共通の課題となっています。今回の奈良県における消防の広域化の取り組みは、これらの諸課題を克服し、住民サー

ビスの向上と消防力を強化するものとして、県民はもとより、消防関係者から期待と注目を集めています。

本部業務を統合することによって事務の効率化を図るとともに、救急、火災予防及び火災調査等の専門スタッフの充実を図ることが可能となります。特に本部に指揮支援隊を24時間体制で編成できたことも広域化による成果といえます。この指揮支援隊は、平時は火災現場等に出動して現場支援を行いながら、大規模災害発生時に即応できる体制を整えています。また11消防本部を統合した結果、将来的には施設や設備等の重複投資を回避



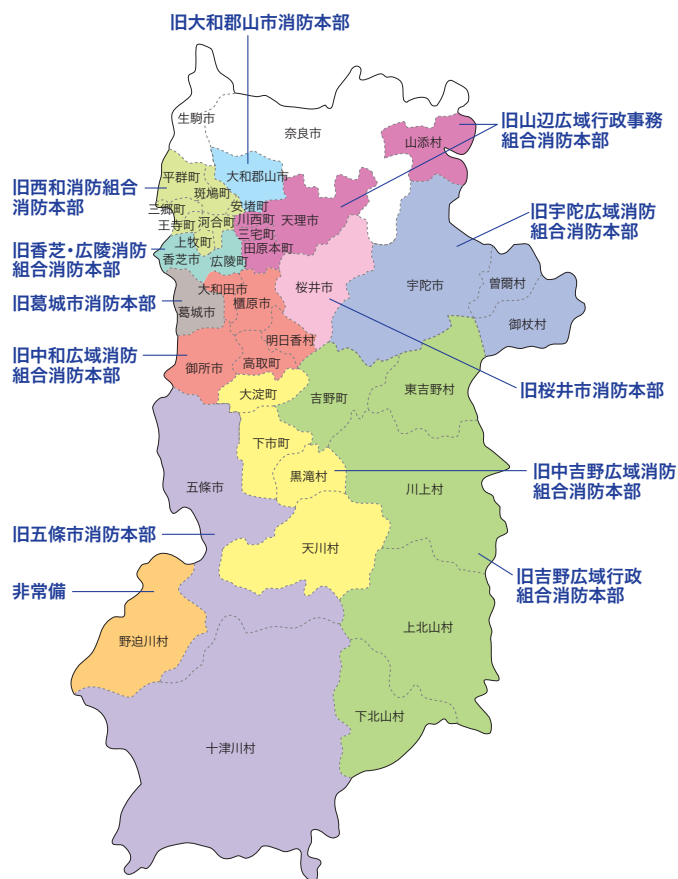
左から
山本 洋 副消防長 平城 満 消防長 山内 孝道 副消防長

することができ、計画的な整備が可能となって市町村の財政負担が軽減できるものと期待されています。

平成28年4月には、消防救急無線のデジタル化を見据え、高機能指令システムを導入することが予定されています。通信指令部門の統合を図り、指令の一元化を行うことで消防活動の初動体制が強化され、現場への到着時間を短縮することが可能となります。

広域化の第1段階として、平成26年4月より本部部門を統合し、次に平成28年4月に通信指令部門の統合、平成33年には、現場部門の統合を行うことで真の一元化を目指しています。

奈良県広域消防組合消防本部



むすび

奈良県広域消防組合は、住民サービスの向上及び消防力の強化を目的とし、住民の生命、身体及び財産を各種災害から守り、住民が安心して安全に暮らせる管轄地域の実現に向けて広域化のメリットを最大限に活用していくことを目指しています。また広域化による効率化によって得られた人材や財源を、より高度な住民サービスの提供に繋げ、全国の消防広域化の模範となることを目標に、職員が一丸となって住民に愛される消防を目指して業務に邁進し、奈良県広域消防組合の新しい歴史と伝統を創造して行きたいと考えます。